

# 独創的な感性光る

## 豊橋美博に障がい者の力作 アウトサイダーアート展

障がい者理解の促進や障がい者アートの普及などを目的に、県内外の障がい当事者らが手掛けた芸術作品を展示する「アウトサイダーアートとよはし」第8回アウトサイダーアート2019豊橋が9日開幕。同日、豊橋市美

術博物館第3展示室で特別展示「アウトサイダーアートとよはし」が始まった。同実行委員会など主催、東愛知新聞社など後援。美術博物館では地元東三河をはじめ、京都や大阪など全国各地から出展された障がい者による平面・立体作品計100点余を展示。油彩画やアクリル画、ペン画、切り絵といった個性豊かな絵画や陶芸品などの立体が会場を彩る。配

障がい者らの感性豊かな作品が並ぶ会場―豊橋市美術博物館で



色、フォルムなどどれも既成概念にとらわれないう、伸びやかでパワーを感じさせる作品ばかり。会場では、2018年「一枚のはがき」アートコ

ンテストに寄せられた力作から選ばれた受賞作11点も合わせて展示している。「毎年1000人以上が会場を訪れ反響も大きい。今後はアーティストを支援すると同時に障がい者アートでの町おこしも考えており、来年は形態を変えて取り組みを全国発信していきたい」と関係者。同館での展示は14日まで。  
イベントは5月7日まで展開し、市内の「WACアグリカフェ」みんなの居笑」でも5月7日まで関連展示が開かれているほか、16日から5月2日まで新城市の「くらサポカフェ」で「アウトサイダーアートしんしろ」も開催。期間中は各会場でも多彩な関連行事も予定している。(田中博子)